

教材・支援機器活用実践事例(特別支援学校版)

	実践名(実践年度)	平成30年度
参加する授業について	教科名等 (該当する教科名等を選択。当てはまらない場合はその他を選択し、次の単元・題材名の欄に記入。)	☐ 国語 ☐ 社会 ☐ 算数/数学 ☐ 理科 ☐ 生活 ☐ 音楽 ☐ 図画工作/美術 ☐ 家庭/技術・家庭 ☐ 体育/保健体育 ☐ 道徳 ☐ 外国語/外国語活動 ☐ 総合的な学習の時間 ☐ 特別活動 ☒ 自立活動 ☒ 各教科等を合わせた指導 ☐ その他の教科 ☐ その他()
	単元・題材名	日生(朝の活動など)
	授業の目標	・クイックトーカーを活用して、朝の会の司会進行をすることができる。 ・けじめをつけて授業に参加することができる。 ・落ち着いて、医ケアを受けることができる。
	観点別学習状況の評価の観点 (教科の特性により設定した観点がある場合は「その他」を選択し記載。)	☐ 「知識・理解」 ☐ 「技能」 ☐ 「思考・判断・表現」 ☐ 「関心・意欲・態度」 ☐ その他()
	自立活動の要素	☐ 健康の保持 ☒ 心理的な安定 ☒ 人間関係の形成 ☐ 環境の把握 ☐ 身体動き ☒ コミュニケーション
学習(集団)の実態	学部・学年・人数	☐ 通常の学級 ☐ 通級による指導 ☐ 特別支援学級 ☒ 特別支援学校 ☐ 就学前 ☐ 小学生 ☒ 中学生 ☐ 高校生以降 ☐ 特定されない
	対象の障害	☐ 視覚障害 ☐ 聴覚障害 ☒ 知的障害 ☐ 肢体不自由 ☐ 病弱・身体虚弱 ☐ 言語障害 ☒ 自閉症 ☐ 情緒障害 ☐ LD(学習障害) ☐ A/DHD(注意欠陥/多動性障害) ☐ その他
	子どもの課題(特性・ニーズ)	☐ 聞く ☐ 読む ☐ 見る ☒ 話す ☐ 書く ☐ 運動と姿勢 ☐ 計算する ☐ 推論する ☒ 日常生活活動 ☒ 社会性・コミュニケーション ☐ 不注意 ☐ 多動性・衝動性 ☐ 覚える・理解する ☐ 時間的・空間的・人的交流の制約 ☐ その他 ・障害により、話すことが困難。指差しや仕草や手話等で意思要求を伝えることが長期目標である。また、気管切開をしており、定時の医療的ケア(吸引、吸入)が必要である。それから、特定の物に夢中になることが多く、それが出来ないと落ち着きがなくなり、医療的ケアや学校生活に支障がでる場面がある。そのため、学校生活の場面に応じて行動すること、気持ちの切り替えや常に落ち着いて医療的ケアを受けることが目標である。音楽が大好きで、心理的に不安定の場合でも音楽を聴くと落ち着くことがある。
ICT活用について	使用した支援機器・教材の名称 (使用した支援機器・教材の名称を記載。なお、特定の製品に特化した実践の場合は製品名を記載。)	・クイックトーカー23 複数のキーにメッセージを録音し、再生できる機 
	活用のねらい(概要)	A コミュニケーション支援(☒ A1意思伝達支援 ☐ A2遠隔コミュニケーション支援) B 活動支援(☐ B1情報入手支援 ☒ B2機器操作支援 ☐ B3時間支援) C 学習支援(☐ C1教科学習支援 ☐ C2認知発達支援 ☒ C3社会生活支援)
	活用方法	・クイックトーカーを使用することで、主体的に朝の会の司会進行をさせる。 ・クイックトーカーに好きな音楽を入れることで、心理的安定を図る。 ・好きな音楽を入れて、クイックトーカーへの興味関心を高めさせ、その後、コミュニケーションのツールとして活用させる。
効果・評価	ICTを活用した授業での子どもの様子や変容および授業の評価	・事前に、朝の会の会順に必要なメッセージ(朝の挨拶、出席確認)や授業の始まり、終わりの挨拶、日常生活に必要なフレーズ(トイレへ行きたいです。医ケア室へ行きたいです。)などを録音する。本人や周りへ親近感を持たせるため、録音は、家族の声で行わせた。 ・朝の会の進行の時に持って使用。・教科の授業以外は、常に持ち、医ケア室への移動や医ケアを行う際に、音楽を聴いたり、要求がある時活用させた。(音楽の音量は、周りへ迷惑にならないように、本人に聞こえるぐらいの音量で録音した。)
資料	図・写真・表等 (生徒の写真は個人情報公開の確認を取っているものとする。)	 